

住民が安心して住み続けられるための地域医療を！

地域医療を守る共同行動 みやぎ連絡会 News

2020.12.18.Fri No.16

発行／地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局
〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町39-18（民医労内）
Tel 022-782-0633／FAX 022-782-0634

12/15（火）・16（水）

『3病院移転・統合反対！』 労組中心に連日取り組みが行われました！

赤十字病院・労災病院周辺地域への署名用紙配布
県議会議員との懇談、三回目となる街頭宣伝



12/15（火）・16（水）の両日、大雪の中で、労働組合が中心に、3病院移転・統合反対の各種取り組みが行われました。

15日には、労災病院周辺の台原地域で「移転・統合反対」署名を500通全戸配布し、病院内の署名活動でも70筆の署名が集まりました。

16日早朝から赤十字病院職員向けの街頭宣伝行動が取り組まれ、11名が参加し横断幕を掲げ、「移転・統合反対」署名200通を手渡しました。宣伝後、八木山周辺地域での反対署名全戸配布が行われました。

その後の県議会会派の自民党と県民の声の2会派へ訪問し懇談が行われ、自民党では「県知事のやり方も、なかなか県民に理解されないやり方」との認識を確認しました。県民の声では、参加した労災病院OBから移転統合するかもしれないことへの怒りと思いが語られました。

昼には三回目となる街頭宣伝が行われ、18名参加で320筆集まりました。

地域医療を守る
共同行動みやぎ連絡会 **総会**

2021年1月8日（金）18:30-20:00

仙都会館8F会議室

講演講師 金田 基 県議

(注 / 一部報道転載の為、組織内資料扱)

3病院統合は期限設けず議論 宮城知事、慎重姿勢

2020年12月15日 河北新報

宮城県立がんセンター（名取市）と東北労災病院（仙台市青葉区）、仙台赤十字病院（太白区）の連携・統合構想を巡り、年内に一定の方向性を出すとしていた村井嘉浩知事は14日の定例記者会見で、期限を設けず慎重に議論を続ける考えを示した。

議論の進展を問われた村井知事は「幅広くいろいろな選択肢を出しながら組み合わせを考えている」と説明。各機関が長期的な視点で検討しており、2者連携、3者統合、3者独立といった多様な可能性があると繰り返した。

協議が遅れている背景として、新型コロナウイルスの影響で対面での意見交換ができない現状を挙げ、「オンラインだけでは、なかなか意思疎通がうまくできない」と語った。

県議会から拙速を避けるべきだとくぎを刺された点に言及。「結論ありきで進めたと言われたいよう、多少時間がかかってもいいので、3者で納得できるまで話し合いをした方がいいと職員に話している」と強調した。

方向性を出す時期の目安については、時間的制約を意識せずに協議する必要性を指摘。「5年先、10年先というわけにはいかないが、無理に結論を出さない方がいい」と述べた。

■ 村井知事会見 ■ (2020年12月14日) 県内3病院の連携・統合について

◆Q／病院の連携・統合の関連でお話を伺いたいが、一般質問等々でもご発言なされているが、年内は難しいということだが、あらためて、これまでどれぐらい、中身ではなく協議の状況だが、どれぐらい協議をして、今どうなっているからなかなか難しいのか、そこら辺をもう一度お願いする。

■村井知事／まだ幅広くいろいろな選択肢を出しながら、組み合わせを考えているということです。3者連携、2者だけ連携、あるいは2者で統合、3者で統合、もうばらばらに独立してやっていく。いろいろな選択肢がありまして、それがどういうふうな効果があるのかというようなことを幅広くいろいろ議論しています。また、当然、それぞれの病院は経営が別々ですので、長い目で見て病院経営がどうすれば一番いいのかということも、それぞれの立場で考えていくということでございます。それを持ち寄って議論しているんですけども、なかなか顔を合わせて議論ができない状況ですので、オンラインなんかを使いながらやっておりますけれども、どうしても時間がかかってしまうということでもあります。

議会からも、丁寧にやりなさいという意見が多数ありまして、拙速と言われることのないようにしてくれということでありましたので、私は職員には、時期を切って結論ありきでやったのではないと言われることのないように、多少時間がかかってもいいので、じっくり3者で納得できるまで話し合いをしたほうがいいんじゃないかと話しているということです。従って、現時点でまだ何も決まっております。何か決まって、それに重ねていく状況ではなくて、まだ土台が何も固まっていないような状況ということです。

◆Q／時間をかけて丁寧にということだが、年内は無理だということで、いつ頃までにというだいたいのめどというのは立っているのか。

■村井知事／もう立てないようにしています。言う、またあと何日です、あと何日ですとなるので立てておりません。

◆Q／あくまで丁寧に議論を進めるということを優先して議論を進めるといふことか。

■村井知事／はい。要は3者が納得してですね、どこかが何か無理をして決めるというのではなくて、3者が納得し、そして、それが結果的に県民の皆さまにとって今よりもよくなるという見込みが立つ、立ったということで、それが、その時期までしっかり協議しようとなったということです。

◆Q／時期は決めないということだが、それによってこれからの計画に影響することはないのか。

■村井知事／特にないです。当然、病院も機器を更新したり、あるいは人を採用したり、あるいは建物のメンテナンスをしたりということがありますので、当然5年10年先というわけにはいかないわけですが、今月が駄目ならば来月とか今年度中とか、あまりはっきり明確に切ってしまうと、また時間的に制約を受けてしまうのと、あとコロナが収まるかどうか分からないので、コロナが収まって、ある程度顔を合わせて意見交換ができるような状況にならないと、簡単にやっぱり……、ネットだけでですね、オンラインだけではなかなか意思疎通がうまくできないというのもご理解をいただきたいと思います。そういった理由からです。

◆Q／本件については、もともと、団塊の世代が75歳以上を迎える時期を前に、がんとそれ以外の疾病と一緒に診るような病院を構築することで考えていらっしゃるというまず話があったと思うが、その本来スケジュールをですね、先にして、特に年限を設けないという話だったが、その大前提の部分をそのかねあいでいったときに、進ちょくというのは大丈夫か。

■村井知事／先ほども言ったように、別に5年も10年もかけてということではなくて、あまり時間を切って、それに合わせて無理な結論をとということではないということでもありますので、大前提は、おっしゃったように、これから団塊の世代と言われる方が後期高齢者になり、だんだんお年を召されて、いろいろ合併症を持ちながらがんになれる方も出てくるという方を、総合的に治療できるような病院をということで考えてございますので、その前提は崩さないようにして、それぞれの病院、いいところありますので、そのいいところをどう吸収しながらやっていけるのかということを考えているということです。そこに当然病院のそれぞれの経営というのがありますので、決してボランティアでやるわけじゃなくて病院経営もありますので、病院は病院なりにそれぞれの病院の考え方がありますから、そこを持ち寄っていい形を目指していきたいと考えているということでもあります。

◆Q／率直に、この議論で一番ネックになっているというか、難しいなという問題点というか課題というのはどこにあるのかというところを、知事の中でお考えがあれば教えてほしい。話がなかなか前に進むのが、スピーディーに進められるものではないのかもしれないが、何か課題というか。

■村井知事／最大の課題は、これから急激に人口が減るんです。宮城県全体で見ると、何度も言いますが、25年間で50万人ぐらい人口が減るといふ予測が国立社会保障・人口問題研究所から出されているわけです。それを前提に考えますと、どのような形になっても病院経営は決して楽ではなくなってくるわけです。その中で、理想を追求しつつ、どうやって病院経営を成り立たせるのか。そこがそれぞれの病院で考え方がありますので、そういったことをどうやって落としどころとして見いだしていくのかということ是非常に大きな課題になるだろうなと思っています。

◆Q／経営とのかねあいで、皆見いだせないでいるという状況だということか。

■村井知事／そういうわけではないんですけれどもね。それがやはり一番最終的には大きな問題になるんじゃないかと思っておりますけれども。先ほど言ったように幅広にいろいろ議論をしていますけれども、最後はやっぱりそこに行き着くんじゃないかと私は思っています。どこもやはりこれから経営は大変になっていきますので。これは今回の3病院だけじゃなくて、県内全ての病院です。自治体病院を含めて、どのような病院でもみんな同じ問題を抱えているということです。